

科目名	人間学特殊ゼミⅡF（スピリチュアルケア実践論）			学期	後期	単位数	2	担当者	大河内大博
副題	-								
ナンバリング	N2-10-287	授業方法	講義	実務経験の有無			無	関連DP	2

授業の目的と概要

本授業では、国内のスピリチュアルケアの理論について学習し、加えて、会話記録セッションによるグループワークを通して、自らの実践の振り返り、ケア実践の強みと弱みについての自己理解を深める。

授業の到達目標

スピリチュアルケアの理論を正しく理解し、グループワークを通して自らの実践を振り返る視点を身につける。

授業計画

1. スピリチュアルケアの基礎
2. スピリチュアルケアの理論①（窪寺理論）
3. スピリチュアルケアの理論②（大下理論）
4. スピリチュアルケアの理論③（村田理論）
5. スピリチュアルケアの理論④（伊藤・谷山・小西理論）
6. 会話記録セッション①（患者とのラポール形成）
7. 会話記録セッション②（患者とのラポール形成）
8. 会話記録セッション③（対人援助パターンの気づき）
9. 会話記録セッション④（対人援助パターンの気づき）
10. 会話記録セッション⑤（他職種連携について）
11. 会話記録セッション⑥（他職種連携について）
12. 会話記録セッション⑦（質問法とフィードバック）
13. 会話記録セッション⑧（質問法とフィードバック）
14. 会話記録セッション⑨（カンファレンスのコーディネート）
15. まとめ

準備学習（予習・復習）・時間

事前に課された課題作成に取り組み（60分）、授業内で発表する。

テキスト

窪寺俊之他編著『スピリチュアルケアを語る〈第3集〉臨床的教育法の試み』（関西学院大学出版会、2010年）

参考書・参考資料等

大河内大博『今、この身で生きる』（ワニブックス、2014年）

学生に対する評価

レポート（50%）、発表（25%）、授業参加の積極性（25%）

ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 自己課題への気づきを得ている。
- (B) 自己課題が明確であり、グループダイナミクスを理解できている。
- (A) 自己開示ができ、課題に取り組み姿勢がみえている。
- (S) スピリチュアルケアの基本的対人姿勢が理解できている。

課題に対するフィードバックの方法

質問等については、毎回の授業の「リアクションペーパー」を通して、次回授業内でフィードバックを行う。

その他

グループワークでは自己開示を必要とする授業である。土3の「スピリチュアルケア演習」（前後期）とセットで受講することが望ましい。

実務経験のある教員が行う授業内容（どのような経験を持ち、どのような授業内容か）